

重松貿易

欧州などの海外企業と提携し、高機能なポリマー重合剤や金属不純物の回収捕捉剤を投入し医薬業界などで注目される重松貿易の今年の目玉商材は、有機合成の還元剤などとして創薬分野などで市場が拡大しているボラン（水素化ホウ素）化合物だ。

ベンチャー企業ながらボラン化合物の製造力はトップクラスと評価を高めている中国の専門メーカーとタイアップしており、医薬の研究開発向けなどとして日本での販売を始めた。アピールポイントが高品質、低価格。重松貿易は「流通している欧州品より2〜3割は安値感があるだろう」と強調。顧客の問い合わせも日を追って増えているようだ。

重松貿易と提携したのは、上海市のボラン化合物メーカー、Shanghai Foreign Pharmaceutical（上海福興医薬科技有限公司）だ。設立は201

ボラン化合物 成長期待

3年、産声を上げて4年目のローカル化学メーカーだが、本社のある上海市に研究開発部門や工場を保有しボラン・ジメチルスルフィドやボラン・テトラヒドロフランなどのボラン錯体をそれぞれ年100ト以上の規模で生産し、中国の製薬企業などに供給しているという。東京で毎年開催される国際医薬品原料・中間体展「CPhI JAPAN」にも昨年、初めて出展し日本市場への参入も計画していたことから重松貿易との連携が決まった。

「ボラン化合物は燃料電池自動車の開発で脚光を浴びる水素の製造原料としても注目されている」（同社）。重松貿易は以前から、この化合物の新用途を探っており、大きな可能性を秘めた商材として成長が期待されている。